

令和6年度和歌山県性教育研究協議会の報告

和歌山県性教育研究会
会長 内川 さやか

1 はじめに

和歌山県性教育研究会では、令和5年度の近畿・北陸・東海ブロック大会に続き、令和6年度は会員を中心に県内の養護教諭等関係教職員及び医療従事者にも呼びかけ、「和歌山県性教育研究協議会」を開催しました。

本会は令和5年度に設立したばかりの会で、少人数ながらも熱心に取り組む会員が集まり、学校における性に関する指導の充実を目指して、試行錯誤をしながら活動を行っています。

本研究協議会は、講演やワークショップを通して個別指導についての理解を深め、各学校における性に関する指導の充実を図ることを目的に企画、開催しました。

2 開催概要

日時 令和6年11月2日 13:30～16:10

場所 和歌山県民文化会館 大会議室

内容 講演・ワークショップ

3 講演・ワークショップ

【講師】全国性感育研究団体連絡協議会
理事長 野津 有司

【演題】保健教育としての個別指導
～性に関する指導を中心に～



本会は養護教諭の会員が多く、個別指導に従事する機会も多い。令和6年3月に公益財団法人日本学校保健会から「保健教育における個別指導の考え方、進め方」が発行されたことを踏まえ、演題を設定した。

近年、「包括的セクシュアリティ教育」が注目される一方で、日本の性教育の不十分さが指摘されている。そこで、アイスブレイクも兼ねて、世界各国の性に関する指導の現状について

国名当てクイズが行われた。教育や文化、価値観等によって異なり、それぞれに優れた点や問題点があることを理解することができた。

その中で、日本における性に関する指導は、学習指導要領で発達の段階に応じた指導内容が示され、教科等横断的に学ぶ機会が保障されている。また、個別指導や外部講師を活用しつつ細やかに取り組んでいくことが目指されていることから、諸外国では見られない素晴らしい土台が培われている。性に関する指導の充実のためには、土台（「何を教えるのか」）を十分に活用し、「どのように教えるのか」という視点を持って教材や指導方法の工夫をしていくことが非常に重要である。

さらに、児童生徒の発育・発達には個人差があり、家庭の事情や背景等によって性に関する感受性や考え方も多様である。そのため、集団指導で学習した知識の補完や発展、配慮を要する児童生徒への寄り添った対応等細やかな指導につなげるための工夫として、保健教育における個別指導についても説明していただいた。

予定していた演習については、実際にロールプレイをする時間をとることはできなかったが、今後、本会や各学校においても演習可能となるよう、事例や個別指導の流れを資料で説明していただいた。

最後に、性に関する「自分らしさ」はいろいろであることを踏まえた上で、今後の検討課題として「性のグラデーション」の解釈や言葉の使い方があげられた。

4 おわりに

当日は気象警報が発令されるほどの荒天でしたが、参加者は、一歩進んだ性に関する指導を実践すべく野津理事長の講義を熱心に聴講し、理解を深めることができました。

一方で、当初予定していた実践発表等を取り入れることができず、講義のみとなってしまったことは課題であり、次年度以降は、講義のみならず実践発表も取り入れ、会員同士が学び合える機会にしていきたいと考えています。

令和5年度和歌山県性教育研究大会（近畿・北陸・東海ブロック）の報告

和歌山県性教育研究会
会長 入駒 一美

1 はじめに

令和5年度の近畿・北陸・東海ブロックでは、今年度、新たに設立した和歌山県性教育研究会が主催で開催させていただきました。

学校における性に関する指導をめぐる国の動向として、令和4年度からすべての校種で新学習指導要領に基づく指導が行われるとともに、12年ぶりに改訂された生徒指導提要では性に関する課題についての記載が充実しています。一方で、新型コロナウイルス感染症の流行以降、中高生の妊娠相談や梅毒等性感染症の増加等性に関する問題はこれまで以上に多様化・深刻化しています。

このような現状を踏まえ、本研究協議会は、講演や実践発表を通して、学校・家庭・地域が連携した性に関する指導について理解を深め、各学校における性に関する指導の充実を図ることを目指して企画し、10月22日(日)に開催しました。

2 講演

【講師】 全国性教育研究団体連絡協議会
理事長 野津 有司

【演題】 学校における性教育をどう進めるか



学校において性に関する指導を推進するに当たっては、児童生徒のみならず教師や保護者の性に対する羞恥心や指導に対する抵抗感があることが大きな障害となりやすい。一方で、性に関する問題のみならず、児童生徒の性意識も多様化する中で、学校においては、性に関する指導のねらいや在り方について共通理解を図り、子供たちが生涯を通して適切に判断し、行動していくための基礎となる資質・能力を身に付け

ることができるよう有効で適切な指導が求められている。

性に関する指導は、ブームで終わらせるのではなく、着実に実践していく必要がある。

3 実践発表

I 「心が動く学びを目指して」

【発表者】 和歌山県立古佐田丘中学校
養護教諭 山田 晃子 氏

II 「豊かな人間性を育む性に関する指導を目指して」

【発表者】 和歌山県立箕島高等学校
養護教諭 戸田 糸保 氏

III 「特別支援学校における性に関する指導の取組」

【発表者】 和歌山県立紀北支援学校
養護教諭 本岡 智里 氏

実践発表後のグループ協議では、性に関する指導を実施する上での悩みとして、教育活動全体を通じて実施するに当たっての体制整備や保護者との連携の在り方等の意見が出されました。また、実践発表に対する講評として、野津理事長から次の事項が示されました。

- ①外部講師を招聘する際には、児童生徒及び学校両方の観点から、外部講師を活用することによる効果等を検証する必要がある。
- ②指導を継続するためには、学校の内外における連携体制を整備するとともに、担当者が変わることによる変化を進歩の機会と捉えることが重要である。
- ③指導内容や児童生徒の発達の段階に応じた適切な教材となるよう工夫をする必要がある。

4 おわりに

奈良県性教育研究会の協力により、設立間もない当会が主催で研究協議会を開催し、野津理事長による講演や本会会員による実践発表ができたことは、今後、当会を活性化させていくために大変励みとなる貴重な機会となりました。